

# 来週の「売り物」記事はこれ



2014年8月8日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## 「悲しみ」は「悲しみ」に救われて

### 仏教ホスピス 「最期」の駆け込み寺

10日(日)



超高齢化社会を迎えたいま、超「多死時代」を迎えようとしています。国立社会保障・人口問題研究所によると、2039年の年間死亡者数は、12年の125万人から30%増の166万人にのぼると推計しています。そうしたなか、「終(つい)の棲家」として注目されているのが、終末ケアを担うホスピスです。けれどもその日常についてはほとんど知られていません。京都府城陽市の「あそかビハーラ病院」は、仏教教団が経営する全国唯一のホスピス。僧侶が常駐し、人生最後の時を過ごす人たちに



寄り添っています。自らも悩み苦しむ仏門に入った僧侶はこう口にしました。「悲しみは悲しみを知る悲しみに救われ、涙は涙にそそがれる涙に助けられる」。僧侶の目を通して「いのちの輝き」を描きます。

日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待ください。

## 戦争を知る著名人とともに平和の意味を考える

### 連載「この国で確かにあったこと」

夕刊2面特集ワイド 15日(金)まで連日掲載



国土が焦土と化した末の敗戦から69年となる今年、政府は集団的自衛権の行使容認を閣議決定しました。このまま「戦争のできる国」へと突き進んでいっていいのでしょうか。今年は後世の歴史家から、「いつか来た道」に逆戻りした転換点だったと評される年になるのかもしれませんが。こんな年だからこそ、漫画家の水木しげるさんら戦争を知る著名人の方々に、戦場で見た地獄や旧満州(中国東北部)からの悲惨な引き揚げ体験などをうかがい、平和の意味を考えます。

## 「TOKIO城島 出合いに感謝」

おんなのしんぶん面 10日(日)



人気グループ「TOKIO」のリーダー・城島茂さんのコラム。今週は、1日から始まった、TOKIOのCDデビュー20周年記念ライブや、7月に発売されたベストアルバムについてつづっています。メンバー個人でも活躍中のTOKIOならではの悩みもあるようです……。



## 衣・夏のワンピースの着回し

くらしナビ面 9日(土)



夏に出番の多いワンピース。シンプルなもの飽きが出るし、派手な柄では、いつも同じものを着ている印象を与えてしまいます。アクセサリなどの小物をうまく使って、イメージを変える方法を、イメージコンサルタントの双葉さんに聞きました。同じ服でも小物で違う洋服にみせることができれば、おしゃれの上級者なんだそう。

## 広がるホームビジット

くらしナビ面 13日(水)

国内で外国人と交流するのに、自宅に泊めるホームステイでは、負担になりますね。一方、観光地巡りばかりでなく、日本人のリアルな生活に触れてみたいという外国人旅行者が大勢います。家庭に数時間滞在し、食卓を囲んで交流する「ホームビジット」が今、広がりつつあります。実際の交流ぶりを拝見しました。

## サッカー日本代表のアギーレ新監督来日

11日(月)夕刊、12日(火)朝刊



サッカー日本代表のハビエル・アギーレ新監督(55)が11日午後、来日します。アギーレ監督は02年ワールドカップ(W杯)日韓大会と10年W杯南アフリカ大会で、母国メキシコを率いてベスト16に導き、13~14年シーズンにはスペイン1部リーグのエスパニョールを指揮しました。9月5日に札幌ドームで行われる国際親善試合・ウルグアイ戦で初采配し、「アギーレジャパン」がスタートします。W杯ブラジル大会1次リーグで1勝もできず、決勝トーナメント進出を逃した日本。アギーレ監督は日本代表どう再生させるのでしょうか? その人となり戦略、指導方法は? 毎日新聞は就任後初の記者会見を詳報し、アギーレジャパンの今後を占います。